

平成17年(ワ)第87号・同18年(ワ)第16号 遺伝子組換えイネ野外実験栽培
差止め等請求事件

原告 山田 稔 ほか22名

被告(独)農業・食品産業技術総合研究機構

証拠説明書(9)

2007年2月1日

新潟地方裁判所高田支部民事部 御中

原告ら訴訟代理人弁護士 柳原 敏夫

書証(甲79~84)

号証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作成者	立 証 趣 旨
79	公開特許公報(公 開番号:特許公開 2001-29075) (抜粋)	2007.2.1ダ ウンロード		1999年7月、宇垣正志氏と田中宥司氏ら の共同研究「単子葉植物の超迅速形質転換 法」が特許出願されたこと。 その当時、宇垣正志氏も田中宥司も農林水 産省農業生物資源研究所の職員であったこ と。
80	表題「アグロバクテ リウムによるイネの 新規効率的形質転換 法の開発」の文書	同上	農業生物資 源研究所	宇垣正志氏と田中宥司氏らの共同研究「単 子葉植物の超迅速形質転換法」がイネ発芽 種子を用いたものであること、 上記共同研究が特許として登録されたこ と。
81	農業生物資源研究所 平成13年度年報 (抜粋)	同上	同上	宇垣正志氏と田中宥司氏らの共同研究「 イネにおけるジャスモン酸応答性遺伝子 RERJ1の機能解析」の成果について、2001 年、植物化学調節学会第36回大会で報告 されたこと。
82	農業生物資源研究所 平成14年度年報 (抜粋)	同上	同上	宇垣正志氏と田中宥司氏らの共同研究「 イネにおけるジャスモン酸応答性遺伝子 RERJ1の機能解析」の成果について、日本 農芸化学会大会で報告されたこと。

83 の1 ~2	表題「我が国独自の技術で安心な組換えイネを開発」というプレスリリース	写	平成 15 年 12 月 22 日 発表	被告・農業 生物資源研 究所ほか	被告北陸センターと農業生物資源研究所らが開発した本 GM イネは、独自に開発した3つの新技術から構成され、その1つが「イネ遺伝子を使った新しい組換え体の選抜技術」であること。
84	表題「抗生物質耐性遺伝子を使わない遺伝子組換え植物選抜技術の開発に成功 - イネ由来の遺伝子を活用 - 」というプレスリリース	写	平成 14 年 8 月 23 日 発表	被告・農業 生物資源研 究所ほか	上記の「イネ遺伝子を使った新しい組換え体の選抜技術」が「突然変異型アセト乳酸合成酵素遺伝子、カルス特異的プロモーター、超迅速形質転換法の、各要素技術を総合化することにより達成されたものである」こと。 このうち、超迅速形質転換法は農業生物資源研究所が開発したものであること。

参考：上記書証の URL

号証	URL
79	http://www6.ipdl.ncipi.go.jp/Tokujitu/tjitemcnt.ipdl?N0000=20&N0400=text%2Fhtml&N0401=%2FNSAPITMP%2Fweb128%2F20070201163956557151.body&N0402=TEXT=%22black%22%20LINK=%22blue%22%20VLINK=%22fuchsia%22%20ALINK=%22red%22%20BGCOLOR=%22%23A9CEEF%22
80	http://www.nias.affrc.go.jp/seika/nias/h14/nias02039.html
81	http://www.nias.affrc.go.jp/newsletter/nenpo/H13fyNenpou.pdf
82	http://www.nias.affrc.go.jp/newsletter/nenpo/H14fyNenpou.pdf
83	http://narc.naro.affrc.go.jp/chousei/shiryoku/press/ine/ine.htm
84	http://www.nias.affrc.go.jp/pressrelease/2002/20020823.html

以上